

(トラック①)

(中・中 汚いものを見るようなイメージ)
へーそうなんだ。

大事な話があるからって、
真剣な顔して黙って聞いていれば…

(中・近)

あなた、自分が今、
どれだけ常識に、
反したこと言ってるか
分かってるの？

(やや右・近)

プライドだけ一丁前の顔して…
数十年連れ添った妻に

「他の男に寝取られてきてください」って、
床で額こすりつけながら
必死に土下座して
お願いするなんて…

自分で言ってる
恥ずかしくならないの？

(中・近、見下し気味)

でも分かってるんでしょ？
わかってて…私に、
他の男と寝てきてほしいって
“本気で”お願いしてるんだ。

最低よ、あなた。

(左・近)

でもね
…気づいてたわよ。
あなたが“その性癖”の持ち主だって。

“寝取られ性癖”ってやつ…
ずーっと隠してたつもりなんですよ？

（中・密着）

他の男に自分の妻を抱かれて、
嫉妬で胸が焼けて、
屈辱で喉が締まって…

でも…その“悔しさ”で
ちんぽだけは
ピクピク反応するような…

そんな救いようなない変態。

（少し距離をとって）
わかってたわよ。

数十年、あなたの妻をやってきたんだから。

お互い名門の家柄で、
若い頃から許嫁として
縁談を組まされて、
早々に結婚して。

ずっと、あなたを見てきたの。

（中・近）

ベッドの下に隠してあるでしょ？
あなたの“情けない本性”が
全部つまったコレクション。

（右・近、あざ笑うように）
今どきスマホで済むことを、
わざわざ紙の薄い本で集めて、
私に見つけてほしかったんじゃないの？

ねえ、変態さん。

(中・近)

ほら、もうやめないで？

そこまで言ったなら、

最後まで“責任”をもちなさい。

あなた、

寝取られが好きなのは

もうバレてるけど…

本当は、それだけじゃないんでしょ。

(やや左・近、囁く)

もっと…もっと情けない性癖、

持つてるでしょ？

私、全部わかってるの。

(中・近、見下しの間)

さあ…おとなしく言ってみなさい。

(中・近、冷笑)

そう…そうよね。

あなたの性癖って、ただの寝取られじゃないの。

(やや右・近)

説明して、あげましようか？

あなたが隠してた、本当の本当の変態性癖。

(中・密着、囁く)

まず一つめ。

他の男に妻を抱かれて、

その“敗北感”で勃つ…

典型的な寝取られ依存。

(中・近、ビシッと指摘)

二つめ。

その寝取られた妻に、

今度は逆に見下されて、

マゾ攻めで躑けられたい。

いじめられたい。

踏まれたい。

罵倒されたい。

それで射精できる…

屈辱依存症…

（やや左・近、ため息混じり）

三つめ。

一番ヤバいところ。

あなた、ただのマゾじゃないのよ。

“寝取られた妻の手で、

自分が最底辺のマゾとして完成させられる”

その工程そのものに、

ゾクゾク震えるタイプの…

調教依存のド変態…

（中・近、見下す）

はあ…

どういう育てられ方したら

そんなねじ曲がった変態になるのかしら。

名門檀家（めいもん だんか）の

跡取りが聞いて呆れるわ。

（右・近）

それで？

本当に私に、

全部やってほしいの？

(中・中)

寝取られた妻に、

徹底的にいじめられて、

プライドも尊厳も全部剥がされて、
性処理だけの存在に落とされて…

その過程の対価として、

ぜんぶ…差し出してまでしたいの？

(中・密着、吐息)

あら、

ほんとうに“いい”んだ。

敬語まで使ってお願いしちゃって…
おなかの奥から震え声出して。

そんなに…

そんなに情けなくて最低なこと、
してほしかったんだ。

(中・近、冷酷な間)

でもね…

あなたの覚悟、まだ伝わってこないのよ。

床に額こすりつけて土下座しても、

プライドの高いあなたがやると、

まだ、どこか体裁を保ってるのが丸見え。

(やや右・近、低く)

わかるでしょ？

あなた自身が一番。

マゾならマゾらしいお願いの仕方がある。

自分がどれだけ哀れで、

どれだけ情けなくて、

どれだけ“最底辺”に落ちたいのか…

ちゃんと形にしなきゃダメ…

（中・近、服を顎で指す）

その服も邪魔よね。

あなたの見栄とプライドを守るための、
しょーもない鎧。

（中・密着、囁く）

マゾなら…全部脱ぎなさい。

（中・近、命令）

ほら。

見ててあげるから。

自分の手で、ゆっくり…脱ぎなさい？

（中・近、冷えた声）

あーあ…ほんと滑稽。

自分の妻の前で、震えながらの
情けな…いストリップショー。

（やや右・近）

手えブルブル震えてるのよ。

私に強要されなきゃ

服一枚脱げないくせに、

それでも“一人前の男のつもり”でいたんだ？

ふん

笑わせないで。

（中・近、命令）

ほら、全部よ。

そのちんぽ隠してるチープな布切れも、
さっさとズリ下ろしなさい？

ころ

なにモジモジしてんの。

マゾのくせに

羞恥心なんて持ってんじゃないわよ。

(中・近、嘲笑)

あらあ…ふふっ。

なーに？ それ。

完全に勃起してるじゃない。

数年間セックスしてないどころか、
毎回中折れしてた残念ちんぽが

“妻に性癖バレしただけ”で
ピンッておったってんの。

ほんつとキモい。

(中・中、刺すように)

自分の妻に変態性癖暴かれて、
そんなに興奮できるわけ？

ああそうか…

自分が“寝取られ好きのマゾ野郎”だつて
バレたのが嬉しくて嬉しくて、
ちんぽ暴れてんのよね。

(やや右・密着、囁き)

ほら…突っ立ってるだけじゃ、
誠意も覚悟も伝わらないの。

“ネトラレマゾ”としての覚悟を
ちゃんと身体で示して？

（中・近、冷徹）

私はこれから知らない男に抱かれて、
あなたの妻としての尊厳を
丸ごと差し出すのよ。

それ相応の覚悟…

あなたにあるんでしょうね？

（中・中、指を弾く音）

じゃあ

——示さない。

情けないマゾとして、

“自分の妻を寝取らせる覚悟”をね。
プライドなんて全部捨てて。

（中・近、鼻で笑う）

あーらあら。

ふふ

見てらんないわ。

滑稽そのもの。

勃起しっぱなしのマゾちゃんぽ、

ゆきゆきフリフリ振りながら、

ガニ股でヘコヘコ踊って、

びったんびったん股揺らして、

両手は頭の上で精一杯の服従ポーズ。

（近距離、見下し）

ヘコヘコ、ヘコヘコ、ヘコヘコ…

ねえ、

自分の顔想像してごらん？

マゾ犬以下よ。

みじめで、

奇妙で、目を背けたくなるほど無様。

（中・近）

そーんなにプライド全部捨てて、
私に寝取られてきて欲しいんだ。

そんな顔してる。

（右・近、切り裂くように）

ねえ、今どういう気持ち？

あなたの一番情けない姿、

ぜーんぶ私に見られてるのよ。

性癖も。

性根の腐り方も。

“男”としてのレベルの低さも。

全部丸裸。

全部見下してるわ。

（中・中、吐き捨てるように）

ああ…気持ち悪ッ。

ほんと、こんな家に嫁ぐんじゃないかった。

（中・近、蔑視）

セックスは下手。

ベッドも別。

小きーいちんぽで何度抱かれても

一度も満たされたことないし、

子ども一人すら作れなかった。

（やや左・近）

でも

…今ならわかるわ。

こーんな自分の妻の前で

“ちんぽダンス”して

マゾ勃起するような

劣等オスのザコ精子で、

妊娠なんてできるわけなかったの。

(中・近、刺すように)

精液の量も情けない。

質も低い。

そんなゴミザーメンで

家系を残そうとしてたなんて、

今思えば冗談みたい。

(中・密着、囁き)

ほんとよ？

あなたのちんぽで

私のおまんこかき回されたって、

気持ちよくなんて…

一度もなかったんだから。

(中・近、吐き捨てるように)

まして、こんなザーメン量が少なくて、

精子もほとんど泳げないような

劣等ゴミザーメンで、

子どもなんて残せるわけなかったのよ。

今ようやく

——心底、納得したわ。

(中・近、つま先で金玉をコツツ)

ほーらほら。

金玉、潰してあげるから…

さっさと謝りなさいよ？

（低い声で、命令）

変態で、異常性癖のゴミで、
申し訳ありません。

自分の性欲満たすために、
妻を他の男に差し出したい変態です。

おまんこスタボロになるまで
犯されてきてください。

そのあと僕もたっぷりいじめて、
マゾ調教いっぱいお願いします…

（低音声）

——ほら。言いなさいよ？
自分の腐った脳みそで考えた通りに。

（やや右・近、囁う）

あらあら、ふふっ…
言わせただけで

金玉キューって上がってきた。

復唱させられて興奮して…

ちんぽビクビク跳ねて、

射精しそうになってんの？

ほんと頭の配線ぶっ壊れてる変態ね。

（冷笑）

こんな下等生物の妻だったなんて…
心の底から恥ずかしいわ。

（中・密着、鋭い声）

ほーら、変態。

マゾ攻めされてるだけで、

ちんぽビクビク震わせて…

先っぽからは、ドロツ…

射精前の我慢汁ダダ漏れ。

床に水たまりつくって…

ほんっと気持ち悪い生き物ね、あなた。

（中・近、命令）

こんな雑魚ちゃんぽに

触れるのも汚らわしいから…

ほら。

自分でシコリなさいよ。

（中・近、見下しながら）

私がしっかり見てあげる。

見下しながら、

見下し続けながら、

あなたが“寝取られ劣等ザコ精子”を

ひねり出すところ、

全部、私の目の前で晒しなさい。

（鋭い声）

射精のときは必ず――

射精ありがとうございます、つて

お礼言って果てること。

いいわね？

（中・中、冷たく）

あーらあら…

プライドの残骸すらないのね。

ちんぽ突き出してガニ股で、

必死でマゾちんぽズリズリ…ズリズリ…

そんな恥行為、

自分の妻の前でして…

最低ね。

(やや左・近)

こんな情けないちんぽで
何年も私のおまんこほじってたなんて、
考えれば考えるほど…
私、可哀想すぎる。

(中・近、宣告)

これからは

“本物”のデカちんぽで、
私のおまんこ、

しっかり耕されてくるから。

あなたは安心して泣いてなさい？

(拒否反応に鼻で笑う)

あらあら、

イヤイヤしてる。

なーに？今さら拒否？

自分で仕向けたクセに。

「他の男に寝取られてきてください」って
土下座までした変態が、
今になって嫌がるのか…

本気で笑えるわ、

性根のすわってないザコ。

(中・近、突きつける)

いい？

もし他の男の精子で

本当に子どもができたら――

私は“産む”からね。

だってあなたのザコちんぽじゃ

一度も子宮を孕ませられなかったんだから。

他のちんぽが私に子作りできたなら…

当然、

そっちのほうを家族にするでしょ？

あなたは“認知”だけしたらいいのよ。

（中・近）

あら、嫌なの？

こんなにちんぽズリズリして、
ビクビク震えてるクセに…

射精は拒むの？

そっだけ嫌だったんだ？
ほんと都合のいい変態ね。

（やや左・近、支配的に囁く）

ほーら…

あなたに選択肢なんて、
最初から一つも無いのよ。

耳を貸してごらんなさい…

（左・密着）

さっさと負けろ、
このクソザコ。

他の男のちんぽで

私のおまんこ孕まされたら、
しっかり育てて、

“お前が”面倒みろ、この変態。

——だあーせっ！

（中・近、見下し笑い）

あらあら

…ふふっ。

ダメ、ダメ、ありがとうございますーって

キモい声振り絞りながら、
床にびゅっぴゅ、

“大量ザーメン”お漏らしして…
ほんとと腹立つわね、その顔。

私とセックスしたときは
数滴の精子しか出なかったくせに、
こんなマゾ攻めだけで
ドバドバ漏らして…

これが本性なんですよ。
恥ずかしい男。

(やや左・中、声を落として)
——いいわよ。

あなたが“気持ちよくなること”、
ぜんぶしてあげる。

他の男に寝取られて、
ズタボロにされて、
泣かされて、
いじめられて…

そのまま怒りに震えながら

“あなたに報復”してあげればいいんですよ？

だって——

私にこんな地獄を強要した
最低の変態なんだから。

お仕置きされるのは当然よね？

(中・近、命令)
だから、約束しない。
最後までやり遂げるって。

どんな屈辱でも。

どんな惨めさでも。

どんな哀れな目に遭っても——

私は絶対、途中でやめてあげないから。

（左・密着、囁き）

さあ…覚悟しなさい。

あなたの人生、

今日から全部…

“地獄の快樂”に支配されるのよ。
わかったかしら？

（トラック②）

（中・中）

ほーら、

抵抗なんてしないの。

裸にひん剥かれて、

夫婦の寝室のベッドで

手足バンザイ拘束されたあなた、ふふっ。

なに？

もうちんぽ勃起させて、

期待でビクビク震えてるじゃない。

自分でどんだけ惨めか、理解してる？

（やや右・近）

ええ、そうよ。

あなたが期待してる通り——

私はこのベッドで、

あなた以外の男に寝取られてきたの。

おまんこ思いつきり使われて、

あなたのザコちんぽじゃ

絶対に出不ないマゾ声あげながら、
何度も何度もイカされて、
ズタボロにされてきたの。

（中・近、冷笑）

このプライドの高い私がよ？

若い男のデカちゃんぽに
奥まで突き上げられて、
獣みたいな声で喘いで、
ガクガク腰抜かして――

このベッドの上で何度も何度も
おまんこ使われちゃったの。

（やや左・近）

それにしてもあなた…

本当に人間として終わってるわね。

寝取りの相手に

“誰を選ぶか”って話になったとき、
まさか

“若くてちゃんぽデツツカい外国人”のオスを
私にあてがうなんて。

最低の発想。

最底辺の変態。

（少し離れ、冷たく）

若くて、強くて、体格差エグい他のオスに
自分の妻を抱かせて、
自分は嫉妬と興奮で
ちゃんぽゴシゴシしながら
一人オナニーしてたんでしょう？

(中・密着、吐き捨て)

ああ、僕の妻が…

他の男のデカちゃんぽで

情けなくオホオホ言ってる…

悔しい、悔しい…

って泣きそうな顔で、

ちゃんぽ擦ってシコってたんでしょ？

(中・近、見下し)

その証拠にほら。

私に見下されてるのに、

そのザコちゃんぽ、ピクツ…ピクツ…

興奮して跳ねてる。

ほんつとに救いようがない生ゴミね。

(やや右・近)

いいわ。

約束通り――

どう寝取られたのか、

全部、聞かせてあげる。

あなたはその間、

マゾ攻めされて、

ビクビク震えて、

勝手に気持ちよくなってるばいいのよ。

(中・密着、足を乗せる音)

ほーら。

まずはこの生足で…

ベッドに拘束されてるあなたの顔、

ぐりぐり踏みつけてあげる。

（やや左・近、踏みながら）
そう。

寝取られ調教の一環として——
私もね、この外国人に
土下座させられて……

こうやって“踏まれた”のよ。

（中・近、踏みつけながら冷笑）
＼の過ぎのババア抱いてやるんだから、
しっかりお礼を言え——
こう言われたのよ、私。

お前の“くっさいゆるゆるまんこ”で、
デカちゃんぽ使ってやるんだから、
土下座で礼を言えって。

（足で夫の頭をぐりぐり）
私が

お願いしたわけでもないのに、
こうやって頭を踏まれながら、
何度も、何度も、

“お願いします”を言わされた。

（中・密着）

「ババアまんこ使ってください……
夫の粗チンなんて比較にならない
デッカいちんぽで、

私のユルマンほじってください」って。

生まれて一度も口にしたことのない
下品で卑猥なセリフを、
喉がかすれるまで言わされて、
屈辱で全身震えながら——
踏まれてたの。

（低く）

全部、

あなたの性癖のためにね。

あなたの願望を叶えるために、
私はこんな目に遭ってきたのよ。

（中・近、踏む力を強める）

ほーらほら。

しっかり味わいなさい。

私が受けてきた屈辱を、
その顔面にゼーんぶ分けてあげる。

（足裏でほっぺを押し潰すように）
ほら、

聞き足に体重乗せて…
あなたのその、気持ち悪い、
舌を出したマゾ顔の肝ったまのツラ、
ぐにやって踏みつけてあげる。

ほら、ほらほら、
耐えなさい。

（中・近、呆れ）

あーあ。

自分の奥さんに
寝取られ報告されて、
それ聞いてちんぽ勃起とか…

本気で恥ずかしいわね、あなた。

（中・中）

そのあとよ。

服ゼーんぶ剥がされて…

こうやって乳首を

——ほら

左右に

ぎゅうって引つ張られたの。

（バチンツと乳首を弾くような口調）

それでこうやって、言われたの…

「重力に負けて垂れ気味の

ババアパイオツ、

ひねられて、つねられて、

ほら、エロい声出せよ？

ちんぽ立たないだろう？」って

バカにされながら

ぐりっ、ぐりっってされてね。

痛くて…苦しくて…

涙が滲むくらいなのに…

なのに身体が熱くなってきて…

声が漏れて…

オホツ…オホツって、

本気で喘いじやってたのよ、私。

こう、乳首を——

ほら、こんなふうに引つ張られながら

ほーら、

ほーら、

（中・近、軽蔑と嘲笑）

あーらあら

…気持ち悪い。

男のクセに、

両乳首を左右にひねられただけで、びんびんに勃起して。

乳首で

気持ちよくなっちゃうなんて、
本気でどうしようもないマゾ男。

（冷たい声で）

私の夫…

こんなにも気持ち悪い
下等変態だったのね。

最低…

（中・近、舌打ち混じり）
ほら

…続き、してあげるわね。

耳の穴かっぼじって、
全部聞きなさい。

（やや左・近）

そのあとね――

前戯？

そんなもん一切なし。

唾も垂らされず、
指すら入れられず、

いきなりデッカいちんぽで
私のおまんこ、串刺しにされたの。

（中・中）

ええ、問題なかったわよ？

“私、マゾじゃない”のに、
屈辱と羞恥で震えて…

それで勝手にドロドロ濡れてたんだから。

(右・近)

ほーら、

こうやってね。

ほーら

すまたで…

ちんぽとまんこゴシ、ゴシ

あなたの”マゾ勃起ちんぽ”に、
私の”寝取られゆるまんこ”を
ズリ…ズリ…って擦りつけて、
再現してあげるの。
ありがたく感じなさい。

(中・密着、鼻で笑う)
でも…

あなたの
ちつつつつきいものは
絶対に入れさせてあげないからね？

粗チンごときが
“中に入りたい”なんて思うな。

素股で十分よ
むしろ素股で出せるでしょ？
ザコちんぽなんだから。

(やや右・近、腰を押し付ける)
ほーら…ズリズリ…ズリッ…

私のおまんこにはね、
まず最初からデカちんぽが
ズブツツ…!!
って入ってきたのよ。

（右・密着、息荒め）

いきなり奥まで突っ込まれて、
子宮の入り口…ごっくんって叩かれて。

もちろんゴムなんて無し。

デカちゃんぽの勢いそのままで
ドスン、ドスンって突き上げられて、

あなたの粗チンじゃ一生届かない

“子宮の場所”に

ばんばん当てられたの。

（中・中）

でね…

お願いさせられたのよ。

もつと…もつと…

もつとください…

デカちゃんぽ大好きです…って。

（中・近、侮蔑）

私の素股だけでビクビクしてる

その小っちゃい粗チンなんかじゃなくて、

本物のデカちゃんぽに――

おまんこ耕されまくったの。

（腰の動きに合わせて）

ズボ…ズボ…ズボ…ッ！

って、おまんこ出し入れされて、

あなたじゃ

絶対出させられない声を

何回も何回も…

勝手に上げさせられたの。

（中・近）

デカちゃんぽにね、

子宮潰れるかと思うくらい

ガンガン突かれて――

苦しくて涙まで出たのに、

それでも身体が勝手に

ビクッビクッて震えて…

オホッ…オホ…って

普段絶対出さないような

ドスケベなマゾ声漏れてたの。

自分でも引くくらい。

（中・密着、夫のペニスを見下す）

あらあら

…何それ？

他の男に寝取られた

奥さんの素股ごときで

もうピクピク震えて…

射精しそうなの？

ほんとに…

情けない。

悲惨。

惨め。

クソザコ。

（やや右・近）

私はね？

デカちゃんぽで子宮貫かれながら、

イクの我慢してたの。

歯食いしばって、

涙出しながら必死に耐えてたのに…

あなたは素股で即射精するつもり？

（中：密着、語気強め）

ほーら、

ちんぽ、

私のおまんこにズリ付けてしごきなさい。

そしてね――

寝取られの最後、

私がどうやってイカされたか…

教えてあげる。

（左：密着、息をかけながら）

私はね…デカちんぽで

思いつきり、ずうんッ…！

って子宮ぶち貫かれて、

中出し

――許してもらおうと思って、

必死で、必死で、お願いしたの。

お願い…お願い…

中出しだけは、許してください…って。

ザコ夫の粗チンでしか

使ったことない

よわまんこ

…どうか処刑は許してください…

って、自分から言わされたの。

（やや右：近、囁き）

だってそこまで、

スイッチ入れられたら、

もう二度と夫となんか…

セックスできなくなっちゃうから。

(中・密着)

おまんこ許して…

子宮許して…

お願いします…って、

涙声でマゾみたいな声上げながら

土下座みたいに腰くねらせて

お願いしたんだから。

(中・近、嘲り)

ふふっ…でもね？

思いは通じて——

おまんこキューって緩めた瞬間に…

ああんッ…ちんぽ抜けちゃって、

外に出されたの。

(腰を揺らすように)

ほら…：こういうふうに…

ああん

…おまんこヒクヒク震わせて…

精子欲しくて欲しくて、

喉の奥まで悔しき詰まってるのに…

耐えたのよ、私。

(やや左・近、息を吐きながら)

でも…ね…

私のおまんこ…

デカちんぽに貫かれてたから、

抜かれた瞬間——

ああ…イク…イク…イクうっ…！！

(中・密着、優しく追い詰める)

精子もらえないもどかしさだけで、

妻まんこ…ザコイキしちゃったのよ。

私は、耐えながらいったの。
耐えながら震えたの。

でも——あなたは違うわよね？

ほーら…

あなたのザコちんぽなんか、
こんなの聞かされてるだけで
もうビクビクしてるんだから…

ほら…イっちゃえ。

イきなさい。

負け射精しなさい。

ほら——射精しろ。

逃げるなよ？

私の寝取られ話で、

ザコ精子ゼーんぶ出し切りなさい。

だー！ーせ

（中・近、見下し笑い）

あらあら

…イっちゃったわね。

素股で、

寝取られ報告だけで射精。

ほんと、

救いようなない情けなさ。

私が他の男に中じゃなくて
“外出してイカされた”って話だけで
ちんぽから精子ダラダラお漏らしして…

最低の変態夫ね。

（やや右・近、落ち着いた声で）
でもね…私、

正直に言うとう——

“寝取られ、悪くなかった”のよ。

あなたのザコちゃんぽなんかじゃ
一生味わえない快樂、
おまんこに刻みつけてもらって。

女としての

“初めての喜び”ってやつに
目え…覚えちゃったのかも。

（中・密着、優しい声で残酷に）
ふふっ

…もしハマっちゃったらごめんね？

もう二度と、
あなたとは
セックスできなくなっちゃう
かもしれない。

…ねえ、
それでも、いいんでしょう？

だってあなた——
私が寝取られてれば
それだけで
気持ちよくなれる変態なんだから。

（近、囁き）
ほら、
もう覚悟しておきなさい。

あなたの奥さんはこれから——
“他の男でしか満たされない身体”になっていくのよ。

(トラック③)

(中・中、冷笑)

ほら…見て。

金玉、

キュウ…って拘束具で縛り上げられて

精子、出せない

“無力チンポ”にされちゃったね。

私の許可がなきゃ、

射精すらできないザコちんぽ。

ほんと、情けないわ…ふふっ。

(中・近、支配的に)

でも、

ちょうどいいのよ。

あなたの性癖のために、

私は今日も

寝取られてきたんだから。

あなたの勝手で

射精なんてされたら、

たまったもんじゃないでしょ？

だから――

ほら、今日は私のオナニーに

しっかり付き合ってもらわよ？

(やや左・近、スカートを上げる音)

こーの、

スカート持ち上げるとね…

ノーパンのまま、

びっしょびしょ濡らせてる

4の越えのドスケベ淫乱ババアの“ぐっちょくぐっちょくおまんこ”

これ、今から――

あなたに舐めてもらおうから？

（中：近、侮蔑たつぷり）

プライドばっか高くせに、

あなた、

一度も私のここ舐めてくれなかったわよね？

でーも今日は違うわよ。

舐めさせるから。

逃げずに、

私に奉仕しなさい？

（中：中、脚を開く音）

ほーら…

椅子に腰かけて、

大股ガバツと開いて、

あなたがおまんこ舐めるの、

じーっと待ってあげてるの。

寝取られて、デカいちんぽで

もう閉じなくなった、

ヒクヒク半開きのゆるババアまんこ――

あなたに舐めさせたくて、

もう興奮で震えてるんだから。

早く…舐めなさい？

（中：近、嗜虐的）

ちんぽ射精も許されなくて、

妻のおまんこ舐めさせられて、

屈辱でちんぽピクピク痙攣しながら

お漏らししそうなんですよ？

ザコマゾだからね。

（命令の声）

ほら、早く舐めて。

舐めながら――

私がどんな風に

相手のデカちゃんぽしゃぶってきたか、
ぜーんぶ教えてあげる。

（中・近、舐め音を聞いて）

あーあ

…ほら見て。

寝取られたって分かった途端、
おまんこに口つけて、

ジュルツ…ジュルル…

ってスケベな音立てて

しゃぶりついてる。

あんたみたいな男には、

こうやって女の股間に

吸い付いてるのが一番お似合いよ。

（中・密着、寝取られ回想の声）

私もそうよ。

昨日も――

デカチン様に

エロく下着着せられて、

強制奉仕させられて、

ドスケベなエロ顔で、

デッカいちんぽしゃぶってきたの。

（声色を濃くする）

根元まで入らないくらい太いちんぽ、

必死に喉奥で受け止めて、

グッポ…グポ…

って音立てながら
ご奉仕してきたの。

（胸を揺らす動作）
垂れ始めたエロ乳、
わざと下着からこぼして、
ユツサ…ユツサ…ゆらして、
デカちゃんぼ様に見せつけながら
奉仕してきたのよ。

（中：近、夫を見下ろして）
ほーら

…あなたもしっかり舐めなさい？

その時のこと思い出して、
おまんこヒクヒクしてるんだから。

私の
——ムレムレでイライラしてる
寝取られババアまんこ、
あなたの舌でしっかりイかせなさい。

あなたの役目はね——

舐めて、

舐めて、

舐め倒して、

寝取られた
女をまたイかせるだけの
情けない“負け犬”なの。

（中：近、ねっとり）
私はね…
デカちゃんぼの味、
完全に覚えちゃったの。

ひよつと顔になって、
口まんこ尖らせて、
根元から先っぽまで――

愛おしそうに、
それでいてドスケベに、
ズリッ…ズリッ…って扱き上げたのよ。

（やや右・近）
ㇿこえた人妻がね？
上目遣いで涙浮かべながら――

ああ…ちんぼ様好き…
このちんぼ様だいすき…
いつもおまんこ使ってくれる
デカイ黒ちんぼ様…
大好きすぎますう…

って、
プライドも外聞も何もかも捨てて、

でかちん専用の
“エロひよつとこフェラ顔”になって、
しゃぶりついてたの。

（中・密着）
下品で、いやらしくて、
奥まで届かないのに
必死に飲み込んで、
ズツチュ…ズツチュ…
スケベな音、
部屋中に撒き散らして。

変態マゾ妻のドビッチ顔で、
ちんぼ様に奉仕してたのよ。

（中・中、息を吐きながら）
でもね？

私のフェラテクじゃ満足できなくて…
自分をもっと追い込むために、

ちんぼしゃぶりながら、
ガニ股のまま中腰で――
へコッ…へコッ…へコへコ…

ドスケベなエロまんこに
自分の指3本ズボツて突っ込んで、

グツポ…グツポ…
音鳴らしながら奉仕したのよ。

（やや左・近、命令）
ほーら…

あんたも、
しっかりおまんこナメナメしなさいよ？

私が他人の
ちんぼしゃぶつてきたの思い出して、
おまんこヒクヒク震えながら流れてきた
本気汁のマゾ汁、
しっかり飲み込みなさい。

（中・近、支配の声）
人にしゃぶらせて、
自分は大股開きで
性器にご奉仕させてるのって…

ほんつとに気持ちよくて、
たまんないのよ。ふーっ。

（中・密着、脳を焼く囁き）
でも…考えてみなさい？

あなたは

今こんなに必死に舐めてるのに、
私の頭の中は――

デカちゃんぽのことしか
浮かんでないの。

（中・近）

ああ…あのちゃんぽ…
口まんこでズツポズポ舐めつけて、
舌で先っぽと裏筋ねっとり舐めて…
お精子ください…って
ぴゅっぴゅ射精お願いしてきたんだから。

（やや右・近、吐息混じり）

ㇿのすぎのドスケベなエロ女が、
若い男のザーメン欲しくて
ちゃんぽナメナメ奉仕して、
お精子おねだりして…

池の鯉みたいに
バカみたいな顔して、
口パクパクして…
自分でまんこ開いて
ぐちよぐちよマンズリしながら
精子ちょうだい…って。

（中・近、追い詰める）

これ以上情けなくて、
これ以上最低な行為なんてないのに…

それでも――
子宮がうずうずしてたまらなかったの。

(中・密着、淫らに囁く)
ほーら…

あなたも、私のおまんこに
しっかりご奉仕しなさい？

私がおまんこから

ぴゅっ…ぴゅっ…っつて

エロいアクメ汁飛ばして

絶頂できるように――

寝取られ変態のあなたが

このドスケベおまんこの面倒
ちゃんと見るのよ。

(太ももで頭を挟み込む音)

ああ

…思い出してきた…。

私が

おまんこズリズリ擦りつけながら、
自分で

乳首いじってピンピンにして、

そのままデカちゃんぽを

喉奥までずっぽし咥えて…

口まんこで出し入れされて…

喉奥ペニスファックされながら

「おザーメン…おザーメン…

お願い…お願い…」っつて

必死におねだりしたの。

(やや右・近、息混じり)

そしたら…

ちんぽ金玉がキューって上がって…

竿にザーメンが
ずずず…って溜まってくるのが
喉で分かって…

その瞬間――

彼が私の頭を両手で押さえつけて、

オナホ扱い。

喉奥にザーメン流し込むために
腰ガンガン振ってきたのよ。

(両脚をきつく締める動作)

ほーら

…あなたにも同じように…

私の太ももでぎゅううって
締め付けてあげるから…
私がイク前に、ほら…
呼吸合わせなさい？

ほーら

しめころして…

あ・げ・る

(中：近、快樂に溶けた声)

あああ

…デカちゃんぽ様…

おまんこに欲しい…

でもザーメン…

お口にもいっぱい欲しいの…

出して…出して…

出して…

喉奥ちゅぽちゅぽ吸いながら
本気でおねだりしたのよ…。

(腰が震える気配)

ほら…想像して？

ちんぽがイク瞬間…

熱いザーメンが

どぶっ…どぶっ…って

喉奥に注ぎ込まれる瞬間を。

その想像だけで――

私のおまんこキュンッ…キュンッ…

ギュウウウって締まってる。

(呼吸を荒くして)

ほら

…私のスケベまんこ汁…

あなたの舌でしっかり受け止めなさい。

イク…イク…

イクッ、イクッ…！

(中・密着、絶頂の瞬間の声)

あああっ…！

おちんぽザーメン…

口の中に…

どぶっ…どぶっ…注ぎ込まれるの…

思い出して…！

おまんこ…痙攣して…

ビクッ…ビクビクビクッ…！

――口に、発射…っ

イツ…く…ッ…！

（腰が落ちるような、震えた息）

あっ…あっ…

はぁ…っ…

（無声音喘ぎ 5秒）

…出た…っ…。

（中：密着、余韻で震えながら）

ああ

くく…思い出してる…思い出してる…。

あの、

ねっとり半ゲル状の濃いザーメン…

口ん中いっぱいに流し込まれて…

どぶっ…どぶっ…って

胃袋にまでびゅーびゅー満たされて…

“胃袋子宮”が孕まされるみたいに熱くなって…

その快感、全部思い出しながら――

あなたの口穴に

びゅっ、びゅっ、って

メスイキ射精して、

…私、イってる…

あっ…あっ…あっ…くく

（やや右：近、息を整えながら微笑）

ふふっ…何？

そんなに気持ちよかったの？

私のおまんこ汁、

必死に口で受け止めて…

拘束されてるザコちゃんぽから

勝手に射精して…

ほんつと、
哀れで可愛いわね。

勃起もできないくせに、
寝取られただけで
射精しちゃうんだもん。

でーも…
これが一番気持ちよかったんだよね？
変態くん。

(中・近、さきやきながら支配)
私がどんどん…
デカちゃんぽにハマっていくの…
もっと聞きたいんでしょう？

なら——
あなたはもつと、もつと、
最低で哀れな変態に堕ちていきなさい。

(すこし柔らかく、呟くように)
…でもね。

落ちていくあなたを見るの、
私…嫌いじゃないのよ。

(優しさをわずかに滲ませる)
そんな情けない顔して…
それでも私のこと、
手放したくないんでしょう？

ふふ…
いいわよ。落ちればいい。
あなたが堕ちていくぶんだけ——
私はちゃんと、見ててあげるから。

(右・密着、締め of 囁き)

さあ…

次はもっと深く堕ちようね、あなた。

(トラック④)

(中・中)

(ゆっくり見下すように)

ふふっ、いい姿ね。

後ろから全部見えるわよ？

そのだらしない四つん這い。

ケツ上げて、

尻穴ヒクヒクさせて、

期待と屈辱で震えてる、

情けない後ろ姿。

(やや前屈みで覗き込むように)

ほら、

こっち…ちゃんと見なさい。

私の股間についてる、

このとっても卑猥で淫靡な“モノ”。

どう？

あの寝取り男と同じサイズのちんぽよ。

今からこれで、

あなたのケツ穴…犯してあげる。

(低く囁く)

いつも私のおまんこを

ずっぶり貫いてくれるデカちんぽ。

それと“まったく同じ規格”のオスちんぽを、
あなたのケツに入れてあげるの。

ふふ…光栄でしょ？

（中・近）

ほら、

見てごらんなさい？

四つん這いになって

ブラブラしてた半勃起ちんぽ、

もう“完全に”ガチ勃起になってる。

興奮しすぎて

皮の下でピクピク脈打ってるわよ。

（嘲笑混じりに）

自分の妻が

他の男に毎日抱かれてる

その“同じちんぽサイズ”で、

今度はあなたが犯されるなんて…

普通なら一生の屈辱なのに、

あなたのちんぽ、

嬉しそうに“マゾ勃起して”るわね。

ほんとに気持ち悪い。

（密着・囁く）

ねえ、理解してる？

あなたは夫なのに、

私のおまんこを使う権利すら、

もう持っていないの。

寝取り相手だけが、

私を抱ける唯一の男。

なのにあなたは、

自分の寝取られ妻にケツ穴犯されて、

その屈辱と恥で

メスイキしたいなんて考えてる。

最低どころか、

生物として最終ランクの変態よ？

(中・中:ゆっくり煽る)

ふふっ

でもいいのよ。

あなたは

“そういう生き物”なんだから。

妻の寝取られ話だけで射精して、

自分はアナルでしかイけない

残念な劣等オス。

ほら、そのケツ穴…

ヒクヒクっ…って縦に震えてるわよ？

挿れられる瞬間を、

情けないマゾ穴が待ち構えてるみたい。

(低く、支配的に)

さあ

“あの男と同じサイズ”のちんぽで、

あなたのケツ穴、挟ってあげる。

覚悟しなさい、変態夫。

(中・中)

(ねっとり見下す声)

他の男に、

自分のメスが染められていくのを楽し…

ほんと、

どうしようもない異常性癖の最低男ね。

（嘲笑気味に）

でも、それで気持ちいいんでしょう？

“自分の奥さんが他の男色に染められていく”っていう

あの胸が焼けるみたいな屈辱が、

あなたの性欲の燃料なんだものね。

（中・近）

ほら、

お尻叩いてあげるから、

“ありがとうございます”って言いなさい。

ほら、ほら、ほら。

（くぐもった冷笑）

あーあ、

恥ずかしい。

“僕のこと犯してくれて、ありがとうございます”
“いつも寝取られお疲れさまです”

…そんな言葉、

自分から出るんだ。

（囁き）

ん？

「汚いケツ穴ですけど、

いっぱいほじってください」…？

ふふっ、

私が指示してないのに

どんどん情けない言葉が

出てくるじゃない。

（中・中）

やっぱりマゾって芸達者ね。

こっちが何も言わなくても、勝手に転がってくれる。

ほんと、飽きないわ。

(やや下から見上げるように)
じゃあ…いい？

お尻、犯してあげるから覚悟しなさい。

(少し冷たく)
私があのだかちゃんぽに
されてきたみたいに、
前戯なしでいきなり奥まで突くわよ？

痛くても我慢しなさい。

私だって毎回そうされてきたの。
だから、これは“お返し”。

(中・近)
ほーら、デカちゃんぽ…
あなたのケツアナルに挿入、いくわよ。

(挿入のぬちっ音を想像させる間)
…っっ。

(驚き混じりに)
あーあ、なにこれ。
すーぐに入っちゃったじゃない。

期待してお尻の穴、ゆるめたの？
この変態！

(中・近・腰を掴む動作で)
ほら、
あなたの腰、こうやって掴んで…
私が大股開きで
偽物ちゃんぽ出し入れしてあげる。

ほら

ズボツ、ズボツ、ズボツ。

ねえ、これ——

私がいつもあの男に

“バックでメチャクチャに”されてる動きよ？

（熱のある声で）

あなたの小っちゃい粗チンなんかじゃなくて、

デカちんぽでおまんこの奥をドストス突かれて…

（自分の快楽を思い出す声）

ああ

…おちんぽ気持ちよかった。

夫の粗チンじゃ

絶対届かない場所まで、

毎回えぐられて…

嬉しかったの。

（中・密着）

もっとください。

もっとください——

ってね？

私が必死に媚びて、

デカちんぽ様に

おまんこ使ってもらってた姿、

あなたにも“体でわからせてやる”。

（低く囁く）

ほら、

あなたも言ってるじゃない？

“偽物ちんぽ、美味しいです”

“僕の小っちゃい粗チンでおまんこ使えなくてごめんなさい”

(さらに支配的に)

“これからデカちゃんぽ様の疑似オナホで居させてください”

“僕をしつかりいじめてください”

…ほら、言うの。

心を込めてね

(冷徹に)

ねえ、そんなキモい性癖で…

まだ私の旦那やってるつもり？

(中・近・突き上げるリズム)

ほら、

反省しなさい。粗チン。最低男。

男のくせに、

こうやって寝取り相手と同サイズのペニバンで
ケツ穴突かれて…

“オホッ…オホオホ…”って喘いじゃう変態。

(中・近・冷徹に)

あなたみたいな

腐りきった変態オスは、

こうやって腰振られて

ズボズボ突かれてるだけで

“オホッ…オホ…”なんて、

人間の声とも思えない

獣みたいな汚い鳴き声出すのよね。

聞いているだけで、

ほんとと吐き気するわ。

(軽蔑して鼻で笑う)

私が本物のおちゃんぽ挿れられてたら、
その瞬間にあなた、

絶対に“萎えて”縮こまるわよ。

自分が勝てない相手のちんぽが来たら、
ちんぽごと心も折れちゃう弱者なんだから。

（中・中）

ほら、もっと

キモい声、もっと上げて？

私が飽きないように、
その情けない声を精一杯ひり出さない。

（舌打ち混じりに）

ほーら

変態、マゾ、負け犬の粗チン野郎。

寝取られ粗チンから

みっともなく

“マゾ汁”とろとろ漏らして、
ケツで気持ちよくなって
ちんぽイキ寸前になってる、

性欲だけで動く下等生物のゴミ。

（さらに低く追い込むように）

奥さんにペニバンで突かれて、

ちんぽガチ勃起させて、

腹につくくらい

角度つけてピンピン跳ねて…

それでメスイキしそうになってるなんて、
あなた、もはや…

“男”でも“人間”でもないわ。

（中・密着・ゆっくり）

本当に男なら、

あの“デカちんぽ様”みたいに…

おまんこ奥までほじって、
子宮をギョツ…って悲鳴あげさせて、

先っぽから強い精子を
ドクドク出して、
メスを満足させるのが当たり前。

でもあなたは無理。

あなたは、生産性ゼロの
ケツで喘ぐだけの
底辺マゾ

最低の、
使い道のない、廃棄寸前のゴミ。

(中・近・突き上げながら)
ほーら、
悪いと思うなら“証明”しなさい。
早くイキなさい。

私の腰が疲れないうちに、
あなたの情けない雑魚ちゃんぽから
敗北マゾ射精、吐き出して見せなさい。

(追撃するように)
ほら

…デカいちゃんぽサイズのペニバンで
ケツ穴ズボツ
…ズボツ…って犯してあげるから、

そのまま、ほら、
ケツでイキなさい。
ケツで負けて、ケツで果てる、
あなたなれの果て

(中・近 腰を打ちつけながら低く笑う)
最低、寝取られ変態男

ほらっ、出せ、出せ、出せ

自分の寝取られ妻にケツ穴犯されて、
そのまま

アナルきゅーって締め付けられて、
ほーら、それでメスイキしろ
この変態っ

(中・近 急に腰を強く叩きつける音 バンッ)
あらあら、
果てちゃった？ふふっ

ほんと情けなしい顔して、
ケツ穴びくびく震わせて、
メスみたいに腰跳ねさせて、
アナルから

ドロドロ敗北ザーメンお漏らししちゃって

(やや密着 囁くように)
いつも私がおまんこイカされるときに、
最後に思いつきパーンって
腰浮かせて打ち付けられるんだけどね、

(中・近 アナルに突き込む角度を変えながらぬち…ずらっ)
まさか、あなたも…

ふふ
他人の特技を真似して
私が同じ角度つけたら、
そのまま簡単にイカされちゃって
ほんつとに、変態だね

(左・密着 甘く吐息をかける)
でーも、いいのよ？

あなたのことを、
私は決して見捨てたりしないから

(中・密着 ゆっくり腰を動かしながら ぬふ…ぬりゅ…)

全部、私のことも受け止めてね

あなたのケツ穴が覚えた変態癖も、

あなたのザコ精子も、

あなたのマゾの全部も、

ぜーんぶ私が踏みつけて、支配して、
あなたの中に刻んであげるから

(中・近 腰を深く押し込みながら)
これからあなたのこと、

たーくさん、

たーくさんいじめてやるんだから
逃がさないわよ

私の大事な寝取られマゾ夫くん

(トラック⑤)

(中・近)

(ベッドの軋み、小さく湿った息)
ほら、

今からセックスするわよ？

あなたの、

その…ふるふる震えて、
中途半端におっ立ってるだけの
ザコ半勃ちおちんぼ。

私のおまんこで、
ちゃんと

ズボズボ出し入れしてあげるんだから、
びじって縮（まらないで？）ふふっ。

（中・近）

なあに？そんな怯えた目して。

この封筒に入ってる

妊娠検査の“結果”が怖いのか？

（左・密着 ささやき）

ふふ…

大丈夫…

後で、教えてあげるから

（中・近）

ほら、あなたは

いまベッドに押し倒されて、

情けないザコちゃんぽだけ天に向けて、

ガニ股でプルプル震えながら、

私のおまんこを

“上から落とされてちゃんぽの処刑”の待ってるんだよ？

そんな姿見せつけといて、

まだ夫のプライドなんて残ってるつもり？

（やや右・近）

それとも

…怖いのは、こっちかしら。

（右・近）

（紙が擦れる音）

私、生理…もう2ヶ月来てないの。

ふふっ、

検査の結果が怖くて仕方ないんだよね？

あなたのそのザコちんぽ、
ビクツて上に跳ねたの、
ちゃんと見えたわよ。

（中・近）

ほら、この紙に書いてあること…

内容次第では、ほんとうに、

“あなたの妻のおまんこ、他の男の精子で孕まされました”
って証明されちゃうわけ。

あなたねえ…

自分の奥さんが、他の男のデカちんぽで
ガン突き中出しされて、
そのまま妊娠して…

それを

“書面”で知らされる夫になるわけよ？

（左・密着）

そんな屈辱、
怖くて怖くて

おちんぽ震えてるくせに…
ガチガチに興奮してるのも、
丸わかりなんだからね？

あなた、

ほんと最低の寝取られザコ夫。

（中・近）

でも、ほら。

寝取られただけで
ガチ勃起しちゃう、
救いようのない変態負け犬ちんぽに、

私のおまんこ、

ガニ股ヘコヘコポーズで乗ってあげるわよ。

妻に跨られただけで

ビクビクしてんじゃないわよ、ザコ。

(中・近)

ほーら

…あーあ、乗っただけで分かるわ。

来た来た来た

はい残念〜。

ちつつつき。

久々に“夫のちんぽ”でセックスしてみたけど、
小さすぎて…

ほんとに入ってる？

空気でも押し込まれてんのかと思ったわ。

(右・密着)

ねえ、分かる？

デカちんぽ様は、

こっやって

私が跨って腰振った瞬間、

おまんこの奥、

子宮のド真ん中、

いっちばん気持ちいい場所に

ドンッ！って届くの。

私の子宮に、

デカちんぽの先っぽ

コツコツコツコツ叩かれて、

“あ、これ中出しされるやつだ…”って
分かっちゃうのよ。

今からこのデカちゃんぽで
大股開きセックスされて、
腰カン振りで中出しされるって、
子宮が勝手にキュンツて開くの。

(中・近)

あなたのザコちゃんぽじゃ
そんな場所、永遠に触れないのにね。

どんなに子宮締め付けても、
つよつよ精子が力づくでこじ開けて、
おまんこの奥まで侵入して、
妊娠させちゃうのがデカちゃんぽ様なのに。

あなたのは浅ーいところで
ヒクヒク無様に突っつくだけ。

ほんと“おまんこ”より気持ちよくないの。

(中・近)

ああ

…こんな小っちゃいちゃんぽ。

おまんこの入口あたりで
ヘコヘコ擦ってるだけ。

何の刺激にもならない。
おまんこが反応すらしない。

あなたのザコ射精なんて、
量も少なえし、勢いもないし、
子宮まで絶対届かない。

孕めない残念粗チンの
雑魚ザーメンで

“あっ…全然来ない…”って
女に思われてるの、分かってた？

(中・近)

それなのに気持ちよくなっちゃってるの？

(さらに追い詰める感じで)

ねえ~~~~

気持ちよくなっちゃってるの？

あーらあらあら、

マジで笑えるわ。

こんなんでもピクピクしちゃって、

“おまんこで中出ししたいですぅ…”って
お願いして

ほんと、

生きてて恥ずかしくないの？

(中・近)

もう他の男のつよつよ精子に

卵子食われてるかもしれない

寝取られおまんこで、

負け食み劣等ザーメン、お漏らししたいんだ？

仮に孕んでなくても…

残念すぎる粗チン精子なんて、

デカちゃんぼ様の最強お精子たちに

瞬殺されて、全滅させられて、

子宮のゲート前で転がされて終わりなのに。

卵子にも相手にされなくて、

おまんこに吸収されて消えるだけなのに。

それでも射精したいんだ？

あなた、本当に…

気持ち悪いほど

哀れな負け犬オスね。ふふっ。

(中・近)

(ゆっくりと腰を沈める湿った音)

ほーら、

いいわよ？

一応“あなたの奥さん”だから…

中出し、させてあげる。

もう、

手遅れかもしれないんだけどね。

それでも可哀想だから、

おまんこでザコザーメン受け止めてあげる。

無駄撃ちになるの分かってて、

それでもまだ狙いたいなら…

ほら、私の子宮と卵子、

必死に狙ってみなさいよ？

ザコちんぼの全力で。

(中・近)

調教済みの寝取られ妻がさ、

おまんこ“ギユウギユウ締め付けて”

“パイオツゆっさゆっさ”揺らしながら

腰ガン振りで

ちんぼ搾り取ってあげてるんだから…

感謝しなさいよ、負け犬。

あなたのザコ精子、

ゼーんぶ絞ってあげるから。

ああん…中出し、

ほら、決めてみなさいよ。

(やや右・近)

さーん。

(おまんこがねっとり吸い付く音)

ああ…私のおまんこ、

普段はデカちゃんぽにガン突き耕されて
ゆるっゆるなのに…

あなたの粗チンに合わせて、

キュウウ…ッて締めてあげてるの。

特別ガン締めおまんこよ。

“ザコちんぽ専用おまんこ”ってわけ。

これで射精できなかつたら、

マジで男やめたほうがいいわよ？

にーい。

ああ

…子宮、きゅんきゅんしてる…

あなたの薄っぺらザーメンで

汚されちゃうって分かってるのに…

それでも子宮が下りてきて、

あなたの短いちんぽに

子宮口でフェラしてあげてる…

“ほら、お精子ちょうだい”って

おねだりしちやってるの…

最低で…最高ね。ふっふっ。

(左・密着)

いーち。

(息を吹きかけるように低く)

ほーら出せ、

ほーら出せ、

ほーら、出せって言ってるの。

あなたのザーメン、

本気で受け止めてあげるから…

気持ちよすぎて頭バカになってる

寝取られ妻のおまんこに…

全部…全部…

お漏らししなさいよ。

ほら出せ。

ゼロ、ゼロ、ゼロッ！

ほら、中出し…

きなさい。

(腰を押し付け、ぐちゅっと深く沈む音)

(中・密着)

あーあ

…ゼーんぶ、全部お精子、

びゅっ、びゅるっ、びゅっびゅっ…

子宮の奥に、

きれいに飲み込まれちゃったわね。

あなた、普段は

“一こ一滴”しか出ない雑魚ザコちゃんほなのに、

今日は…びゅーびゅー、どろどろ、

金玉の底から全部搾り取られちゃって。

ほら…おまんこ子宮、

あなたのザーメンで

ほんのり温かく満たされてる。

ふふっ…良かったわね、負け犬さん。

(中・近)

じゃあ…伝えてあげる。

あなたが震えてた“妊娠結果”…ね。

(少し間・くすつと笑う)

はーい♡

御開帳〜〜

ふふっ

…良かったわねえ。

まだ妊娠してない、綺麗なおまんこだつて。

…まあ、当たり前よね？

いつもピル飲んで、

“あなたの精子以外では”

孕まないように調整してあげてたんだから。

私が、

あなた以外の男で妊娠？

そんなわけ、ないでしょう？

(右・密着)

でもね…

分かったわよね？

あなたのおちんぽ、

まだ私を孕ませられるレベルに届いてない。

だからこそ——

あなたのちんぽが

ちゃんと“夫の役目”果たせるまで、

私が、あなたを寝取り続けてあげる。

あなたの粗チン精子が

子宮に届くその日まで、

何度でも、何回でも

デカちゃんぽで騷けられて、

あなたの性癖も根性も全部矯正してあげる。

（左・密着・吐息）

いい？

これから、

私があなたのこと…

ぜんぶ管理して、ぜんぶ騷けて、

ぜんぶ支配してあげるから。

逃げられるなんて思わないで？

あなたはもう――

私の寝取られで勃つだけの、

最低のネトラレ旦那なんだから。

ふふっ…

ずっと可愛がつてあげるわよ。